

令和2年度第3回紋別市総合教育会議録

- 1 日 時 令和2年6月18日(木) 午後3時00分～3時25分
- 2 場 所 紋別市役所 市長応接室
- 3 出席者
- | | |
|------------------|------|
| 紋別市長 | 宮川良一 |
| 紋別市教育委員会教育長 | 堀籠康行 |
| 紋別市教育委員会教育長職務代理者 | 小林正男 |
| 紋別市教育委員会委員 | 上林善證 |
| 紋別市教育委員会委員 | 木山順子 |
| 紋別市教育委員会委員 | 渡邊孝博 |
- 4 構成員以外の出席者
- | | |
|-----------|------|
| 総務部長 | 牧野昌教 |
| 総務部企画調整課長 | 竹本幸孝 |
- 5 事務局関係
- | | |
|---------|------|
| 教育部長 | 山崎義一 |
| 学務課長 | 浜屋武志 |
| 学務課指導主事 | 綾部雅一 |
| 学務課庶務係長 | 米田晃 |
- 6 協議内容 (1) GIGAスクール構想について

令和2年度 第3回紋別市総合教育会議 午後3時00分開会

○宮川市長

定刻になりましたので、令和2年度第3回紋別市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、私が務めさせていただきます。

それでは、次第に基づいて、本日の協議に入らせていただきます。

協議事項（1）G I G Aスクール構想について、事務局から説明をお願いします。

○綾部指導主事

私からG I G Aスクール構想について説明させていただきます。画面をご覧ください。どうして今、G I G Aスクール構想の実現が進められているのかということについて、お話をしたいと思います。まず「G I G A」という言葉ですが、「Global and Innovation Gateway for All」、全ての人にグローバルで革新的な入口を、という意味です。これからの学校教育に必要な考え方を文部科学省がその頭文字を取って「G I G A」という言葉で表しています。また、それに必要な環境整備をひっくるめたもの、それが「G I G Aスクール構想」です。これから訪れる社会は、ソサエティ5.0と言われています。これまで狩猟、農耕、工業、情報社会と続いてきておりますが、これに続く第5の社会は、「超スマート社会」です。超スマート社会では、先端技術により社会課題を解決できます。例えば、「遠隔診療」。医師のいない過疎地域にいても、専門医の診療が受けられます。農業では、高齢化や担い手不足の課題も「スマート農業」で解決です。ちなみに、これらの写真が載っている全ては、すでに技術的にはほぼ可能なものばかりになってきております。そういう意味では、すでにソサエティ5.0は始まっていると言えると思います。なかなかイメージがしにくいと思いますが、ソサエティ5.0では、人工知能の急速な変化により、仮想空間と現実空間が融合し、全ての人とモノがつながります。アメリカのある未来学者は、「2045年以降の未来は、人間の脳では予測不可能」と言っています。この度の新型コロナウイルス感染症により、その加速度がさらに増したのではないのでしょうか。このような未来を生き抜くには、変化への対応力、より良い社会と幸福な人生の創り手となる力、これらが必要と新学習指導要領に謳われています。これに加えて、「情報活用能力」の育成が言語能力などと並んで「学習の基盤となる資質・能力」として新たに追加されました。これは、児童生徒誰もが持っている鉛筆や消しゴムなどといった学習用具、これにパソコンが加わるということです。情報機器を、学校で常に使いながら「情報活用能力」を高めていく、ということです。では「情報活用能力」とはどういうことかと言いますと、学習指導要領に示された育成す

べき資質能力3つの柱で説明することができます。一つは、知識・技能です。まずは情報機器を使うことができなくてはなりません。使うための知識や技術、ということです。二つ目は、思考力、判断力、表現力です。情報活用における思考、判断、表現の例としては、プログラミングがあります。例えば、「三角形を描く」という動作。これをプログラミングでやるとどうなるでしょうか。実際にやってみたいと思います。スタートボタンを押したら、ペンをおろし、長さ100進み、左に120度曲がり、それを3回繰り返す、というようになります。これら一つ一つのプログラムを組み合わせ、トライ&エラーを繰り返しながら自分の意図した活動に近づけていく、こういった作業が、子どもの論理的思考力を育てていきます。三つめは、学びに向かう力・人間性です。学校で使えるだけでは社会で役に立たない知識になってしまうからです。例えば、紋別市にもインターネットのテクノロジーによって解決できる問題、こういうものがたくさんあるかもしれませぬ。そのような地域などの課題に向かい、解決しようとする力です。これらのような力を育てていくためには、学校はこれまでの古い価値観や常識を捨てて、「情報活用能力」を高めようとする新たな学校へと生まれ変わらなければなりません。少なくとも一人ひとりの子どもが、未来を生きていく上で必要なスキルだと捉えることがまず第一歩かと考えております。しかし、今の日本はどのような状況にあるかと言いますと、現在日本は「教室でのデジタル機器の使用頻度」OECD31カ国中最下位となっております。世界に比べると、はるかに遅れを取っているのが現状です。PISA調査でも、その遅れが結果となって表れてしまいました。国は、なんとしてでもその現状を変えなければならない。そのためにはまず、教育からということによって生まれたのが「GIGAスクール構想」です。こちらの図は、国の学校デジタル施策の全体図になります。下からビジョン、インフラ、コンテンツと積み上げていくイメージですが、一番下のビジョンは、紋別市のビジョンになるかと思ひます。「GIGAスクール構想」はそのインフラの部分、ハードとネットワークの整備が中心となっております。具体的には、一人一台のコンピュータ端末を全ての児童生徒に与えるとともに、高速大容量の通信ネットワークによりスムーズな利用環境を整えます。これを行うことで学校の授業がどう変わるのかと言ひますと、例えば、既存教科、国語、算数などを効率化できます。これは後ほど説明いたします。他にもプログラミング的思考を育てるような授業や、問題解決型の授業、こういった授業スタイルへの改善が進むということが期待できます。多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を全国の学校で持続的に実現することになります。文部科学省は、ハードとネットワークの整備を5年かけて実現させる予定でした。ところが新型コロナウイルス感染症の流行によって、緊急時においても子どもの学びを保障できるように今年1年での実現を目指すということになりました。国

の令和2年度補正予算案で2,292億円が計上されております。今や教育の情報化というのはマスト、必ずやらなくてはならないものになってきていると考えられます。ハード面の整備が進んでも、これを現場の教師が活用できるようなソフト面の整備も必要となります。インフラ部分にはクラウドや保持のサービスなどは含まれますが、肝心のソフトは含まれません。ハードもそうですが、ソフトはそれぞれの自治体が決めることになっています。経産省はIT人材育成の観点から「EdTec導入実証事業」を進めています。経産省、それとソフトを提供する事業者、学校それぞれにメリットがある事業ですが、これを学校から見ますと、ハードにどのようなソフトを乗せるか、お試し期間を経産省や事業者が助けてくれるという事業になっています。学校側から見ますと、一人1台のハードにどのようなソフトを載せるのか、そのお試し期間を、経産省や事業者が助けてくれるということもできると思います。各企業がこの事業に参入しておりまして、学校にソフトを無償提供する代わりに経産省から補助金をもらえる、という仕組みになっています。ただし、これは1年だけです。1年間に使えるソフトかどうかを検証しなくてははいけません。現在紋別市では、この赤く囲った2社に申請をしております。申請が通れば、先ほど出ておりました既存教科の効率化に関するソフトや一番上のPBL（プロジェクト型学習）、STEAM教育（科学・技術・工学・芸術・数学）のソフトが無償提供されることとなります。本日は、そのうちの一つをご紹介します。これはコンパス社の「キュービナ」という既存教科の効率化ソフトになっております。通常こういった基礎ドリルは、授業の最初ですとか、まとめの場面で使われることが多いのですが、こちたは、AIが個別に最適化された問題を提供する、いわゆるAIドリルです。少し操作をしてみたいと思います。このように問題が出てきまして、下の答えというところに書き込みますと、このように正解と出まして、どんどん難しい問題に発展していきます。正解すればするほど、だんだん難しい問題になっていきます。仮にこれを間違えたらしめます。間違えた答えを出すと、それよりもまた一つ遡って絵が加わりました。子どもが少し答えやすい問題に修正されます。このようにAIが正解か不正解を判断して、その子どもに適した問題を提供する。こういったものをAIドリルといいます。こういったソフトの申請を出しております。最後に紋別市のソフト導入の見通しですが、今年度はこういったコンテンツの検証の1年と考えております。こちらで勝手に決めるのではなくて、学校が実際に使用してみて効果が認められるというものであれば、導入に向けて検討を進めて行った方がいいと考えております。児童生徒一人でも学べるようになりますので、教師は授業を授業でしかできない内容、例えば協働学習などに特化させ、基礎はAIに任せて効率化できる、というものになります。今年度から設置した「もんべつ教育向上プロジェクト会議」において、実際に使う現場の教員の声を聞きながら、導入に向

け検証を進めて参ります。私からの説明は以上です。

○宮川市長

ありがとうございました。それでは、皆様からご意見、ご質問がありましたらよろしくお願ひします。

いかがでしょうか。

○渡邊委員

よろしいですか。紋別市内でも回線が違うところがありますよね。例えば、小向、沼の上、上渚滑について、市内は、光ファイバーがありますけど、上渚滑が今でもADSLだったりしますが、それはどのようになっていますか。

○牧野総務部長

それについては、国で小さな集落を含めて100%の充足率というようなことで、いろいろ財源措置をしてくれそうです。ですから、その具体的なものが見えてきたときに、市としてもそれに乗らないとならないのかなと思っています。まだ具体的なお話ができないのですが、国からそういう動きがあれば、当然、ここだけ取り残されるということになりませんので。

○渡邊委員

回線のスピードという格差があると、行き渡るものも行き渡らなくなると思いますので、そのあたりがどのようになっているのかと思いました。実際、私の家がADSLですが、年々スピードが落ちてきております。体感で分かるくらい落ちているので、そのときに、学校のように大容量になったときには、かなり影響が出ると思いますので、そういった目処がたっているのかなと思いました。わかりました、ありがとうございます。

○牧野総務部長

多少前後はするかもしれませんが、やはりあそこまで線を引かないと、工事が必要なので、それがこのパソコンが入った後になる可能性もあるので、そこはご理解いただくしかないのですが、着実に進めたいと思います。

○宮川市長

その他、どうでしょうか。

○小林委員

こういった新しい技術に対して、精通した若い先生も出てきているので、教育委員会の

予算付けについては、積極的に進めていただけると現場も意欲、やる気が出ると思いますので、フォローしていきたいと思います。

○宮川市長

5年間でやる計画を早めて全国で一斉にやり出すことになりますので、いろいろな問題も出てくる心配もありますよね。

○渡邊委員

今日の午前中、南丘小学校のオンライン授業を拝見させていただきましたが、これが実現して小さな学校から全部なるというのはすごく画期的だし、恐らく中央などの進んでいる学校と差が無くなるような感じがします。例えば、授業の前に、体操ではないですが、始業ベルがなった後に、直ぐに授業に入れる。オンライン授業も、タイムラグも殆どなく、すごくダイレクト感があって、これが実現するとすごく革新的で、学習能力がすごく高まるのではと。ものすごくドキドキして、感動もしましたし、早く実現できるといいなと思いました。一年スパンで、恐らく大変だと思いますが、非常に期待をさせられると言いますか、とても楽しみな感じがしました。

○木山委員

私が南丘小学校の授業を見たときに、今日授業に出席している児童が14人でした。おそらく2人、3人はお休みだったと思うのですが、そのときに、教員1人と、3人の方がいらして、4人の大人がいるという状況だったのですよね。やはり、こういうことを進めるために、普通の授業でもそうなのですが、それなりのサポートをする立場の人が充実していることが大事だろうなと思っていたのですが、やはりその一つには、教員のいろいろな場面に対しての新しい技術に対しての研修をして底上げをしていくということも、私は一番大事だと思います。あと、本日のように恵まれたサポート体制が重要だろうなと。あれを教員一人で順調に進められるかといったら、そう簡単ではないだろうと。紋別市は、いろいろな形でサポート体制を充実してきていると思います。そのことが、より切れ目無くしていくことが、これからより求められていくのだろうと、今日の授業を見て思ってきたところです。ありがたいと思うのですよね。

○宮川市長

教育長、何かありますか。

○堀籠教育長

今日の午前中に、教育委員の方にご案内して南丘小学校で行われたオンライン授業の見学をしていただきました。今度は、一人一端末になると、また全然違う授業の仕方になると思います。子どもたちがどういった意見を書くのかというのは、全て一瞬のうちに先生達に分かってしまうという授業の仕方があるので、今日お話いただいた、大元の通信回線と学校内の通信回線の端末が無いと、全力を發揮できないということがあるので、市教委としては、そのようなところをできるように対応していきたいと考えております。先ほどお話ありました補助できる人材、「ICTサポーター」という名前と呼んでいるところがありますけど、今日もちょっとありましたが、結構トラブルがあるのですね。ICTを冗談で、いつも、ちょっと、トラブルということに対応できるようにするには、先生達も回数を重ねなければなりませんし、ちょっとした細かいところに対応できるような専門家も必要ではないかと思えます。今日使っていたのは、おそらくZOOMですよ。ZOOMとタブレット2つと、大型のテレビでやったので、ほぼ無料という形、ZOOMを40分以上使っているの、経費はかかっていると思いますが、それほど高い経費はかからないと思いますので、技術の進歩がすごいので、昔はこのようなオンライン授業をやるときにタイムラグを感じましたが、今日はほとんど感じないで、通信回線が良くなってきているので、子どもたちは、小さな頃からスマホなりタブレットがあるというようなところから育ってきているので、そういった授業が普通になると思います。今大学生は、入学した時にパソコンを買うように言われていると思いますが、多分、もうすぐ義務教育でも買わなくてはならない時代が来るように思います。市としては、こういった未来を生きる子どもたちのために、できるだけそういった環境に早く慣れていただいて、未来を生きていけるような子どもたちの育成ができる体制を作っていきたいと考えております。

○宮川市長

ありがとうございました。それでは、よろしいでしょうか。
事務局から何かございませんか。

○各委員

ありません。

○宮川市長

それでは、以上で令和2年度第3回紋別市総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時25分終了